

view of fluctuating cloud patterns in the tropical Pacific, Dept. Met. and Space Sci. and Engin. Cent., Univ. of Wisconsin, 31 pp.
Zangvil, A., 1975: Temporal and spatial beha-

vior of large-scale disturbances in tropical cloudiness deduced from satellite brightness data, Mon. Wea. Rev., 103, 904-920.

第20期第15回常任理事会議事録

日時 昭和55年1月9日(水) 15.00~17.00

場所 気象庁予報部会議室

出席者 岸保, 小平, 浅井, 内田, 植村, 奥田, 神山, 関根, 新田, 松本, 増田, 山下.

報告

〔気象研究ノート〕 第138号 集中豪雨は目下印刷中, 次号の気象レーダー特集は原稿がまとまりつつある.

〔教育と普及〕 気象普及書の原稿が集まり現在 revise を依頼, 6月頃印刷に入る予定.

議題

1. 会費の値上げについて

会費を値上げせざるを得ない基本的な説明が関根理事から次のとおりあった.

- 1) 郵便料金について 通常郵便物の値上げと共に第3種(「天気」), 第4種(「気象集誌」, 「気象研究ノート」)も大幅な値上げが予想される.
- 2) 印刷製本費について 必要経費の大半を占めており, ここ2~3年据置してきたので, 昭和54年度には, 約4.6%増額を認めた. しかし, 今後諸物価の高騰によりさらに5~10%の値上がりとなるおそれがある.
- 3) 交通費について 国鉄・私鉄の運賃値上げに伴い, 理事会および各委員会の旅費の増額が予想される. また, 気象研究所の筑波移転に伴う旅費の増額も考えられる.
- 4) 会議費について 昭和56年度前半までは, 大会などの会場を他に求める必要があり, これまで以上の借上料を要する.
- 5) 会員数について 54年度は, 会員増強運動を展開したため, 8月31日現在で260名の純増とな

った. しかし, 退会会員は, 過去数年は, 年40~50名に過ぎなかったが, 今後は, 退職者数の漸増により退会者も増加してゆくことが考えられる. したがって, 今後新入会員の獲得にこれまで以上の努力が必要である.

以上の事から, 昭和56年度の支出増見込額は, 約330万円となるので15%の値上げが必要となる. これに対し, ア. 値上げ幅を小さくするのはわかるが, また値上げをしなくてはならないのでは困る. イ. 値上げの時期が問題となる.

5月の総会で承認されても実際の値上げは, 来年1月からとなる. ウ. 他学会の値上げの状況を調査する. エ. 15%の値上げ等について各支部でも考えて貰う. 等の意見が出された. そこで, まず地方理事の意見も早急に出して貰うことになった.

2. 100周年記念事業について

経費, 国際会議等のかね合いから記念講演会をどのような形で開くかについて討論が行なわれた. 国際会議については, 気象庁の意向を確認する必要があるので企画課長を交えて準備委員会を開き, 意見の調整をはかることにした.

3. その他

(1) 山本賞について 浅井理事から, 1月8日開かれた選考委員会の経過報告があった. この時点では, 2名の候補者にしぼり, 論文の内容に議論がとりかわされた. 選考委員11名のうち4名欠席者があったので最終的には書面投票で多数決により1月末までには1人にしぼりたい.